

日系企業をやめる香港の女性ローカル人材
—なぜ彼女たちはやめてしまうのか—

**The study and analysis of the HK Local Female Talents:
The reasons why they quit the Japanese Companies**

メイ・ウォン
Sino Education

要旨

香港には世界中から優秀な人材が集まっている。そして、その中には、これまで学んできた日本語を生かして働きたいと考える女性も多い。しかし、筆者の知る限りでは、実際日系企業で長く続けて働く女性は少ないように感じられる。そこで、本調査では、香港の人々が持つとされる価値観—「利己主義」、「個人主義」、「自由主義」—とどのように関係があるかのインタビュー調査から明らかにすることを目的とした。本稿では、調査の結果を議論し、香港の日系企業で香港人女性を雇用する際の提案について述べる。

キーワード：

日本企業、香港人、女性、価値観

日系企業をやめる香港の女性ローカル人材 —なぜ彼女たちはやめてしまうのか—

メイ・ウォン
Sino Education

1. 研究の背景・目的

自由なビジネス環境や低い税率という長所から、香港に進出する外国企業は毎年増加している。世界経済の先行き不透明な情勢下においても香港への投資は顕著であり、2013年上半期、過去最高数の企業が香港へ進出している。現在日本は香港において2番目の投資国であり、前年同期と比べて18%の伸びを記録している。そのような状況で、香港の最も大切な資源は、世界に通用する優秀な人材と言える。香港の人々は、香港や中国本土の文化や風習について十分に理解している上に、さらに母語である広東語、中国の標準語である北京語及び国際語の英語も自由に操ることができる。また、日本語を使いこなせる人材も非常に多く、日系企業にとっては大いに魅力的な存在である。

そのような現状で、香港には学んだ日本語を生かして日系企業で働く香港人女性が多くいる。しかし、特に女性の場合、なぜか長続きしないという現状があるようである。かつて香港はイギリスの植民地であったため、今でもイギリスや欧米の文化の影響を深く受けている。それゆえ香港人の価値観のほとんどが欧米人と同じ「功利主義」「個人主義」「自由主義」であると言っている。本調査では、これらの価値観がアンケート結果と一致するかどうかを証明した上で、なぜ調査協力者達が日系企業での仕事をやめてしまうのが議論したい。

2. 調査の概要

日系企業で現在働いている者又はかつて在職していた日本語が出来る香港人女性12名にアンケート調査を行った。本調査で女性を対象とした理由は、1)日本語が話せる香港人は男性より女性が多いこと、2)日系企業で働く香港人は男性より女性が多いことがあるからである。以下、調査協力者の概略である(表1)。

表1: 調査協力者の概略

性別	女性
年齢	22歳～35歳
学歴	大卒
日本語能力	日本語能力試験2級又はN2級以上の資格保持者

調査協力者には、以下の質問に自由記述で答えてもらった。

1. 日系企業を選んだ理由
2. 日系企業での経験を通して勉強したいこと又は期待したいこと
3. 日本人の同僚とのコミュニケーションの問題
4. 日系企業を辞め、転職したい理由
5. 転職する先は日系企業か外資系企業か

3. 結果と考察

3.1. 結果

以下、調査協力者の簡単なプロフィールとアンケートにおける回答のまとめを以下に記す(表2)。プロフィールの内容については、プライバシー保護のため、必要最低限度の項目のみ示している。

表2：調査協力者のプロフィールとアンケートにおける回答のまとめ

事例	年齢	業種	肩書	日系企業を退職した理由	現在勤務の会社
A.	25 歳	電子部品	セールス・コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語が使えない ● ペーパーワークしかやらせてもらえない ● 分析する仕事は全然ない ● 暇すぎる 	日系
B.	29 歳	電子部品	人事総務部の主任 (日本語の修士号を持つ)	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語が使えない ● 昇進するが、簡単な仕事しかやらせてもらえない ● 暇すぎる 	日系
C.	23 歳	内装業	パーソナル・アシスタント	<ul style="list-style-type: none"> ● 会社の規模が小さい、未来が見えない ● 日本語が使えない ● 雑務が多い(例 トイレペーパーを買うなど) ● 暇すぎる 	日系
D.	29 歳	ゲーム関連	セールス・コーディネーター (日本語の修士号を持つ)	<ul style="list-style-type: none"> ● 給料はいいが、暇すぎて責任のない仕事ばかりをさせられる ● オフィスの机に仕切るための壁がないため、プライバシーがない 	外資

日系企業をやめる香港の女性ローカル人材
—なぜ彼女たちはやめてしまうのか—

E.	27 歳	貿易	一般社員 (日本語の修士号 を持つ)	<ul style="list-style-type: none"> 忙しいふりをして、残業するのが嫌 責任のある仕事、例えば、顧客と直接接する仕事がしたい 給料はアメリカの会社より低い 個人的にはおしゃべりやコーヒーを買いに出かけるのがストレスの解消のひとつだが、それをするとうちの人からさぼっているように思われて嫌 	外資 (アメリカ系)
F.	30 歳	家具	セールス・アシスタント (日本語の修士号 を持つ)	<ul style="list-style-type: none"> 忙しいふりをして、残業するのが嫌 責任のある仕事、例えば、顧客と直接接する仕事がしたい 給料はアメリカの会社より低い 会社で方針を決める時、経験のある香港人社員の意見を聞くより日本のやり方に従って行くことが多い。そのため、香港人の意見をあまり受け取らないように感じる 	外資 (ドイツ系)
G.	32 歳	電子部品	セールス・アシスタント	<ul style="list-style-type: none"> 自分は男性上司よりも言葉と分析の能力が高いと思うのに、昇進と報酬は不公平に感じる 	外資 (イギリス系)
H.	29 歳	広告	マネージャー (日本語の修士号 を持つ)	<ul style="list-style-type: none"> 香港人と日本人の時間感覚について、大きな差がある。例えば仕事のため、よく遅くまで(夜 10 時まで) 残業をする。ただし翌日は必ず決まった勤務開始時間に出勤するのは辛い。柔軟性に欠けているように感じる 	外資 (アメリカ系)

I.	34 歳	複合企業	人事部役員	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の価値観では「ワーク・ライフ・バランス」を大事にしているから、日系企業の仕事を優先したり残業ばかりする文化を受け入れられない • 仕事と生活の健全なバランスを維持したい 	外資
J.	29 歳	物流企業	コンサルタント (日本語の修士号を持つ)	<ul style="list-style-type: none"> • 自分はアシスタントとして日本人の同僚に強要されているように感じる • 経験があるので、独立性が高い仕事がしたい • いつも日本人の同僚や上司に報告、連絡、相談をしなければならない。しかし、それはあまり必要がないと思う 	外資
K.	30 歳	生産会社	会計 アシスタント・ マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> • 直属の上司は長く会社に勤めているが、会社のルールに沿って、仕事を終わるだけ • 仕事を改善すべきところを配慮しない • 会計の資格を持っていない上司から学ぶことがあまりない • 将来が不安になってくる 	外資
L.	34 歳	貿易	カスタマー・ サービス	<ul style="list-style-type: none"> • 香港人は職場で仕事と私用のことについて話し合うが、日本人社員からは勤務中に同僚と話すのは良くないと言われる。社内で友達があまり出来ないので、孤独を感じる 	外資

3.2. 分析

調査協力者の全員が、日系企業で働くことを選んだのは自身がこれまで学習した日本語を生かしたかったからである。調査協力者の中には、現在も日系企業で働き続けている者もいるが、我慢できなくなり外資系に転職した者も多い。12名中5名が「自己実現のため」「日本語の能力を認めてほしいから」「キャリアアップ」を目的に日本語の修士号を取得したにもかかわらず、日系企業では二度と働きたくないときっぱり答えている点は興味深い。

調査協力者の12名中6名が修士号、6名が学士号を取得しており、全員高学歴である。香港ではキャリア志向が高い女性が多く、日系企業で課される単調な作業には満足できないところがある。そのため更なるキャリアアップを目指し、12名中9名が外資系へと転職してしまったのである。そしてそこで働くうちに、日系企業に対する不満を更に抱くようになってしまったようである。まず、お茶汲み等の職場文化である。外資系では、お茶汲みやトイレットペーパーを買うなどの簡単な仕事をさせられることはない。なぜなら大部分の外資系には「ティーレディー」がおり、その必要がないからだ。次に、勤務時間の習慣である。外資系では仕事が終われば定時に帰ることが当然のように考えられている。定時で帰ったからといって、自分の評判に悪い影響を与えることはまずない。しかし、日系企業では、実際は忙しくなくても忙しいふりをして残業しなければならない場合が多いという。そのため、香港の女性にとって最も大切な「ワーク・ライフ・バランス」が取りにくいという現状がある。自分の仕事が終わっているのになぜ家に帰ってはいけないのか、そんな厳しい目線で見られるのに全然納得がいかない。さらに、決してさぼっているわけではなく、ストレスの解消のために同僚とおしゃべりをしたり、コーヒーを買いに出かけたりするが、会社は理解をしてくれない。

また、調査協力者たちは日本式の会社の方法に不満を抱いていた。特に上司が自分の意見を聞いてくれない環境に強く不満を持っていた。例えば、何か方針を決める時、経験がある香港人スタッフに聞くよりも、日本のやり方に従って行うことが多いという。そして、香港の男性社員より言葉と分析の能力は高いにもかかわらず、昇進と報酬は不公平であると感じている者もいた。そのため、日系企業は非常に男性に偏っていると感じるに至っていた。外資系企業は男女の区別がなく能力主義であると考えられており、頑張ればそれ相応の報酬と昇進を得られる。そのため、日系企業を辞め、外資系に勤める要因にもなっていた。最後に、日系企業の給料は外資よりも安いという理由で辞めた人も多かく、報酬の面でもメリットがないことが浮き彫りになった。

また、日系企業間で転職をした3名の調査協力者も、同様に不満を抱いていた。全員が日本語能力試験2級に合格しているにもかかわらず、職場ではあまり日本語が使えなかった。そして、ペーパーワークなどの単調な仕事が多すぎたため、仕事にやりがいを感じるができなかった。調査協力者の1人は昇進できたが、それでもやりがいのある仕事は全く増えず、昇進した三ヶ月後には辞めてしまっていた。直接顧客と交渉する機会もなく、暇すぎたのがその原因のようだ。香港の女性は仕事にお金の為だけでなく、やりがいを求めるという傾向もある。自分の能力を伸ばせる仕事も大事なのだろう。

4. おわりに

優秀な人材の流出を防ぐためには、次の点が重要になると考えられる。まず、香港人女性は学歴が高ければ高いほど、独立した責任のある仕事につきたい傾向があり、会社の政策を決める仕事にも参加したいと考えている。多くの日系企業では、女性社員は補助的な役割と位置づけられているが、自分の能力を認められるようにする必要があるのでないだろうか。

次に、日本人にとって当たり前のことでも、香港人にとっては当たり前のことではない場合がある。例えば日本人の女性社員にとっては、お茶汲みはビジネスマナーの一つであるとされるが、それは香港人の女性社員にとってはただの雑務と考えられてしまうため、無理矢理にはさせないほうがいい。さらに、香港の女性にとって、「ワーク・ライフ・バランス」は何よりも最優先すべきものであり、日本人のように仕事の方が優先するという考え方とは全く違う。勤務時間内は一生懸命働くが、仕事が終わればすぐ家に帰るのは当たり前のことで、仕事が終わっても意味なく残業する習慣はない。もし香港人のスタッフが就業時間内に仕事を終えたのであれば、定時に帰らせたほうが良いだろう。また、香港人にとっては自由な環境で仕事をするのも非常に大事である。1日のうち大半をオフィスで過ごすのだから、できれば仕切り壁をつけ、プライベートの空間を保てた方がいだろう。

日系企業が一方的に日本の職場文化や習慣を強要することなく、香港人の考え方や習慣、文化を理解すれば、女性社員からの支持を得られることができ、会社経営もスムーズに行くのではないだろうか。香港の女性の価値を認め、その中で企業が繁栄していく方法を模索しなければならないだろう。

日系企業をやめる香港の女性ローカル人材
—なぜ彼女たちはやめてしまうのか—

参考文献

香港と特別行政区政府-InvestHK 投資推進局（香港ビジネスが発展し続ける場所）

<http://www.investhk.gov.hk/ja/files/2013/07/2013.07-Newsletter-jp.pdf>（2014年10月29日）

Kingsway Personnel Limited

<https://www.facebook.com/pages/Kingsway-Personnel-Limited/186876321363038>

Information on the On-the-job training <http://e-words.jp/w/OJT.html>（2014年10月29日）